令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　石川県　）

１．基本情報

研究指定校名	志賀町立富来中学校

○これまでの研究指定等の状況

－

○学級数

４学級（うち特別支援学級：１学級）

○児童生徒数

５１人（令和８年２月１日現在）

○URL

https://www.town.shika.lg.jp/togi_jh_school.html/

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざして

○調査研究のテーマを設定した目的

近年、「子どもの人権」に関する問題が全国的に関心を集めているが、本県においても児童生徒間のトラブルが少なからず存在しており、児童生徒が安心して生活し、学べる、人権が尊重された環境づくりの必要性が高まっている。また、学校教育における児童生徒の学びは若い世代の意識の向上につながると共に、家庭や地域にも波及することが期待される。

このことから、学校における全ての教育活動全般を通じて、人権や人権擁護に関する知的理解と、それらを直感的に感受し、共感的に受けとめる感性や人権感覚の涵養を基盤として、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力等、児童生徒の様々な資質や能力の育成をめざす。

〇調査研究の概要

児童生徒一人一人が尊重されるとともに、互いのよさや可能性を認め合い、豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざした学校づくり、授業づくりについて研究する。また、組織的に人権教育を推進するための校内体制の確立と、人権教育に係る教職員の資質及び指導力の向上を図るための研修についても研究を進める。本研究指定校を、本県の人権教育推進の核と位置付け、実践事例や研究成果を県内に広めることによって、人権教育の一層の充実を図る。

〇指定理由

本校は、令和６年能登半島地震で大きな被害を受けた志賀町富来地区にあり、生徒、教職員を問わず日常生活に大きな影響を受けた。そうした困難な状況の中でも本校は、「自らの心と身体を鍛え、共に学び、未来を拓く生徒の育成」を目指し、自己決定の場の提供や互いに認め合える場の工夫等を通して、「主体的に学ぶ力」を育成してきた。加えて、学習指導と生徒指導を一体化させた取組の推進により共感的な人間関係の育成、安心・安全な風土の醸成を図っている。

また、本校は、地震の影響で校舎が使えなくなった同地区内の富来小学校と校舎を共用している。校舎の共用を含めた震災の影響下での生活経験により、生徒の中には誰かの役に立ちたいという気持ちが芽生えてきている。この機会に本校を研究校に指定することで、地域と連携した組織的な研究実践を展開し、互いのよさを認め合い豊かな人間関係を築く生徒の育成について、人権教育の一層の推進を期待する。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	◎
② 女性	〇
③ 高齢者	〇
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	〇
⑥ アイヌの人々	〇
⑦ 外国人	
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	〇
⑬ 性的指向、性自認	〇
⑭ その他（　　災害　　）	〇

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

〔現状の分析と課題〕
令和６年度に実施した全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果を抜粋する。

	質問内容	肯定的回答(%)	R6 石川県平均(%)
①	自分にはよいところがあると思う	78.3	83.7
②	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う	95.6	89.1
③	人が困っているときは進んで助けている	95.6	63.8
④	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	95.7	96.6
⑤	困りごとがあるときに、先生や学校にいる大人に相談できる	69.6	67.7
⑥	友達関係に満足している	78.3	91.4

⑦	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいか	87.0	91.1
⑧	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	82.6	80.2
⑨	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている	95.6	87.9
⑩	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている	100	89.7
⑪	道徳で考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んだ	95.7	92.0

①では、肯定的回答の割合は県平均よりも低く、人権感覚の一つである「自己に対する肯定的態度」の高まりが十分でないと考えられる。②では、肯定的回答の割合は本校の方が高く、生徒と教職員の共感的な人間関係は構築されていると思われる。一方で、⑤では、肯定的回答の割合は本校の方が高いが、７割を切っており、まだまだ改善すべきであると考えられる。

④では、肯定的回答の割合は本校の方がやや低く、人権を意識することが十分にできていないと考えられる。

⑨⑩⑪の肯定的回答の割合が高いことから、授業において自分の考えを話すことはできており、他者に受け入れてもらえるという安心感があると考えられる。その一方で、⑥では、肯定的回答の割合は県平均よりも低く、小規模校のため人間関係が固定化されていると考えられる。

また、⑦の肯定的回答が低くなっている。昨年度よりも県との差が開いており、震災の影響も一つの要因となっているのではないかと考えられる。しかし、③や⑧の肯定的回答が高いことから震災を経験して、富来地域を何とかしたいという思いをもっている生徒が多いと考えられる。

普段の学校生活の様子から、９年間同じ仲間と過ごしていることもあり、他者を大切にする意識は高いと感じる。仲が良い反面、相手を傷つける言動がみられたり、やや自己中心的な面がみられたりすることもある。また、固定化された人間関係の中で、互いの成長を認め合う取組が十分でないことが、自己肯定感の低さにつながっているのではないかと思われる。

〔仮説と研究の方向性〕

生徒の現状を踏まえ、本調査研究を行う。その際に、人権教育における校内推進体制を確立させ、人権尊重の視点に立った学校・学級づくり、授業づくりを推進することによって、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになると考えられる。

その仮説に基づき、これまで本校が組織的に取り組んできた様々な実践を「人権尊重の精神の涵養」という視点で整理・分析し、より組織的に、かつ意図的・計画的に人権尊重に立った学校づくりを目指すものとする。また、本校の地域は令和６年能登半島地震により大きな被害を受けている。地域と連携し、災害と人権についても考えていくことで被災者の人権に配慮できるようにし、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力等を育成していきたい。

〇実施方法

本校では、人権教育を通して、自分と他者を大切にしながら、よりよい社会を築こうと行動できる生徒の育成を目指し、以下の取組を実施した。

① 人権尊重の視点に立った「授業」づくり（自他の価値の尊重）

ア 学びを生徒に委ね、対話を大切にした学習者主体の授業の推進

・生徒が自ら考え、判断しながら学習を進められるよう、学びを生徒に委ねる授業づくりを進めた。授業で生まれる仲間との対話や協力を通して、多様な考えを受け止めながら課題解決に向かう力を育てることを大切にした。

イ 生徒指導の４つの視点を生かした、安心して学び合える学習環境づくり

・４つの視点を基盤に、一人ひとりの存在が認められる授業づくりを行った。特に生徒の自己決定を支える教師の見取りとアシストにより、考えの違いや失敗も多様な価値として受け入れられる安全・安心な学習風土を大切にした。

② 人権尊重の視点に立った「学校・学級」づくり（人間関係・実践力）

ア 短時間グループアプローチ「TOGI トーク」の実施

・学活はじめの１０分間で、簡単なテーマについてグループで話し合い、対話の経験を積んだ。「うなずきながら聴く」等のルールや、教師の価値付け等で構成された型に沿って行った。適切な自己表現と傾聴を通して、人との関わり方を学び、人間関係の土台を整えることを大切にした。

イ 生徒主体の活動による実践力と自己有用感の育成

〇生徒による「生徒心得」の見直し

・身近な課題を自分事として捉え、解決しようとする態度を育成するために実施した。検討委員会を中心に、全校生徒と教職員で話し合いを重ね、見直し案を提案した。課題発見→話し合い→提案→試行等の課題解決のプロセスを大切にした。

〇ピアサポートの実施

・まず、全校生徒が学校生活で悩んでいることを端末上で記入した。全校生徒はその内容の全てに目を通し、寄り添えるものに対して、共感的な姿勢でアドバイスを送った。安心して思いを出し合える関係づくりを大切にした。

ウ 「人権の森」コーナーの設置（学びの足跡、情報発信）

・個別的な人権課題を自分事として捉え、理解を深めるために、人権学習会の振り返りを共有した。また、毎月テーマを決めて情報発信を行った。

③ 人権尊重の視点に立った「連携」づくり(社会とつながり行動する力)

ア 「拡大 TOGI トーク」の実施(対話の対象やテーマを広げる)

・校内で行ってきた対話活動を発展させ、地域住民や被災地支援で訪れた県外の学生等と「災害復興と人権」をテーマに対話する取組を行ってきた。対話を通して他者の立場や思いに触れ、相手の思いを想像しながら話を聴くことや、自身の課題発見、行動への意欲につなげることを大切にした。

イ 地域とつながる「災害復興と人権」

・総合的な学習の時間で、各学年が「地域を元気にするために中学生の自分にできること」を考え、高齢者施設や仮設住宅で交流会を実施した。生徒が企画運営することで、自分の行動が誰かを支えることを体感したり、多様な思いや立場に気づいたりすることを大切にした。併せて、高齢者や被災者の人権課題についても学習し、価値的・態度的側面の深まりを図った。学習成果は課題研究全校発表会で発表、共有することで、次年度の学習につなげた。

ウ 関係機関と連携した個別的な人権課題に関する学習会の実施

・生徒が人権課題を自分事として受け止め、他者の痛みに気づき、言動を見つめ直すきっかけとなるよう、関係機関と連携して実施した。

〇全学年　総合的な学習の時間

・いじめ（羽咋警察署）　・拉致問題（志賀町人権擁護委員）

・情報モラル（NTT ドコモ）　・災害と人権（危機管理教育研究所）

・子どもの人権（校外講師による人権教育講話）

・性的指向、性自認（認定 NPO 法人グッド・エイジング・エールズ）

〇２年総合的な学習の時間　被災地支援と人権（自衛隊金沢駐屯地）

〇２年社会科　アイヌの人々(北海道立北方民族博物館・オンライン講演)

〇１年総合的な学習の時間　障害者と人権（石川県立志賀高等学校）

④　人権尊重の視点に立った「体制」づくり

ア　人権教育担当を中心とした校内推進体制の整備

イ　教職員自身の人権感覚を高めること等を目的とした校内研修の実施

ウ　既存の教育活動を人権教育の視点で価値付けし、整理分類

エ　アンケート「THE SCHOOL RECORD」（年４回）を活用した評価と指導改善

〇検証・評価・改善・普及

生徒及び教職員の意識や行動の変容をアンケート「THE SCHOOL RECORD」で検証した。

Ａ：あてはまる　Ｂ：どちらかといえばあてはまる　Ｃ：どちらかといえばあてはまらない　Ｄ：あてはまらない

No	質問内容　【教職員対象】		A	B	C	D	(A+B)/計	差(%)
①	人権教育を推進する組織体制が構築されている。	5月	25	50	25	0	75	25
		12月	57	43	0	0	100	
②	人権に関する知的理解や人権感覚の醸成に向けた指導が効果的に行われている。【知識的側面】	5月	13	50	38	0	63	37
		12月	71	29	0	0	100	
③	人権教育の推進に向け、学習者主体の授業を目指し、自己決定の場の確保や自己肯定感の向上を重視した指導の工夫をしている。	5月	63	25	13	0	88	12
		12月	86	14	0	0	100	

No	質問内容　【生徒対象】		A	B	C	D	(A+B)/計	差(%)
①	相手のことを大切にした思いやりのある言葉や行動を心がけている。【価値的・態度的側面】	5月	30	58	12	O	88	3
		12月	47	44	9	O	91	
②	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。【価値的・態度的側面】	5月	88	9	3	O	97	1
		12月	76	22	2	O	98	
③	地域や社会､学校をよくするために何かしてみたいと思う。【価値的・態度的側面】	5月	23	33	37	7	56	22
		12月	29	49	18	4	78	

④	学校生活をよりよくするために、頑張っている。【価値的・態度的側面】	5月	53	37	9	0	90	8
		12月	56	42	2	0	98	
⑤	人が困っているときには進んで助けている。【価値的・態度的側面】	5月	40	56	5	0	96	4
		12月	51	49	0	0	100	
⑥	学校生活の中で、自分の行動が誰かのためになっていると思うことがある。【価値的・態度的側面】	5月	9	60	28	3	69	7
		12月	29	47	22	2	76	
⑦	自分にはよいところがあると思う。【価値的・態度的側面】	5月	51	37	9	3	88	−2
		12月	42	44	13	0	86	
⑧	学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。【技能的側面】	5月	33	56	9	2	89	9
		12月	56	42	0	2	98	
⑨	授業では友達との対話や協力を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている。【技能的側面】	5月	23	58	5	14	80	13
		12月	53	40	7	0	93	
⑩	友達関係に満足している。	5月	67	21	5	7	87	4
		12月	69	22	7	2	91	
⑪	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。	5月	72	19	9	0	91	2
		12月	62	31	7	0	93	
⑫	人権課題にはこれまでの歴史や社会の仕組みも関係していることを理解している。【知識的側面】	5月	9	30	56	5	39	61
		12月	72	28	0	0	100	

① 検証・評価・改善

ア 人権尊重の視点に立った「授業」づくり（自他の価値の尊重）

○⑧⑨では、対話に意義を感じ、互いの意見のよさを生かして課題解決を図ろうとする技能的側面において、5月調査と比べ肯定的回答が大きく上昇した。

○生徒指導の4つの視点を基盤とした安全・安心な学習風土の中で、学びを生徒に委ねる授業づくりを行ったことで、対話を通して多様な考えに触れたいとする意欲の高まりや自分で課題を解決しようとする主体的な姿が見られるようになってきた。

●一方で、自分とは異なる意見や立場に出会った際、その違いを受け止めることに難しさを感じ、「なぜ相手はそう考えるのか」という背景まで目を向けられない場面が見られる。相手を理解しようとして共感的に聴く力については、まだ十分とは言えない。

〔今後に向けて〕

・【関係づくりの基盤となる「聴く力」の育成】

生徒の実態に応じて「聴く力」を段階的に高め、相手の背景や思いに目を向けて聴く力、相手の考えを手がかりに思考を深める力を育てる。対話を通して互いを認め合い、高め合える関係を生徒自身が築けるようにする。

イ 人権尊重の視点に立った「学校・学級」づくり（人間関係・実践力）

○前年度の課題であった⑩の友達関係の満足度は向上した。これは①の相手を大切にしようとする意識や、⑤の困っている人を助ける行動の浸透が、良好な関係づくりにつながっていると捉えられる。

〇④の学校生活をより良くしようとする意欲が大きく向上した。学校生活上の課題を自分たちの問題として捉え、解決しようとする自治的な意欲が芽生え始めている。

●②「いじめはどんな理由があってもいけない」は、肯定的な回答は高いが、A回答が減少した。A回答からB回答になった生徒に話を聞くと、いじめを否定する規範意識は有しているものの、相手の背景によっては対応に葛藤が生じるという声があった。学級活動や集会等を通して、規範意識の行動化を図っていく。

〔今後に向けて〕

・【かかわりの力の育成】

週１回のTOGIトークで「かかわりの力」を育て、人間関係の土台を整える。

・【確かな実践力の育成】

引き続き、生徒が課題を自分事として捉え、解決に向けて考え、行動するプロセスを重視する。

ウ　人権尊重の視点に立った「連携」づくり（社会とつながり行動する力）

〇③の社会貢献に対する意欲、⑥の自己有用感については、他の設問と比べて肯定的回答は低いが、5月調査から大きく伸びている。地域の人と関わる中で、「自分にもできることがある」という気づきや実践意欲が生まれ始めており、それが生徒の自己有用感を高める要因となったと考えられる。

〇人権教育の知識的側面では、生徒⑫・教職員②ともに肯定的回答が100%であった。関係機関と連携した学習や当事者の話を通して、正しい知識と現状を理解し、人権課題を自分事として捉え、考えようとする姿が見られるようになった。

●一方で、⑦の自己肯定感の肯定的回答は減少した。行動や経験を通して得られた実感が、自己の価値の自覚として十分に内面化されていないと考えられる。

〔今後に向けて〕

・【社会とつながり行動する力】

「授業で学び、学校生活で実践し、地域に広げる」学習サイクルを大切にし、他者とのつながりや自己有用感を実感できる実践の場を継続して設ける。

・【自己有用感に裏付けられた自尊感情】

活動を通して得た達成感や充実感を自己の価値として自覚できるよう、教職員による意図的な価値付けを行う。あわせて、生徒同士が互いのよさを伝え合う場を日常化し、自尊感情を育んでいきたい。

エ　人権尊重の視点に立った「体制」づくり

〇教職員アンケートの全項目で肯定的な回答が100%に達しており、全教職員が共通理解を持って人権教育を推進できていると捉えられる。

〇校内研修を通して教職員自身の人権感覚や専門性が高まったことで、既存の教育活動を人権教育の視点で捉える意識が教職員に浸透してきた。

〇「THE SCHOOL RECORD」の活用により、生徒や教職員自身の変容を定期的に可視化し、客観的なデータに基づいた指導改善を組織的に継続できた。

〔今後に向けて〕

・【アンケートを活用した個別の見取り】

「THE SCHOOL RECORD」を活用した協議を通して、個々の生徒に対する指導や関わり方の改善を図り、生徒の自己有用感が自尊感情へとつながるよう支援していきたい。

② 普及

校内研修を町内小中学校教職員に周知し、参加を呼びかけた。

ア 講師：かかわりプログラム Slimple 代表 曽山 和彦 氏

自他を大切にする「かかわりの力」を育む「スリンプル・プログラム」を学んだ。

イ 講師：認定 NPO 法人グッド・エイジング・エールズ代表 松中 権 氏

性的指向及び性自認を正しく理解し、自身の言動を省みる重要性について学んだ。

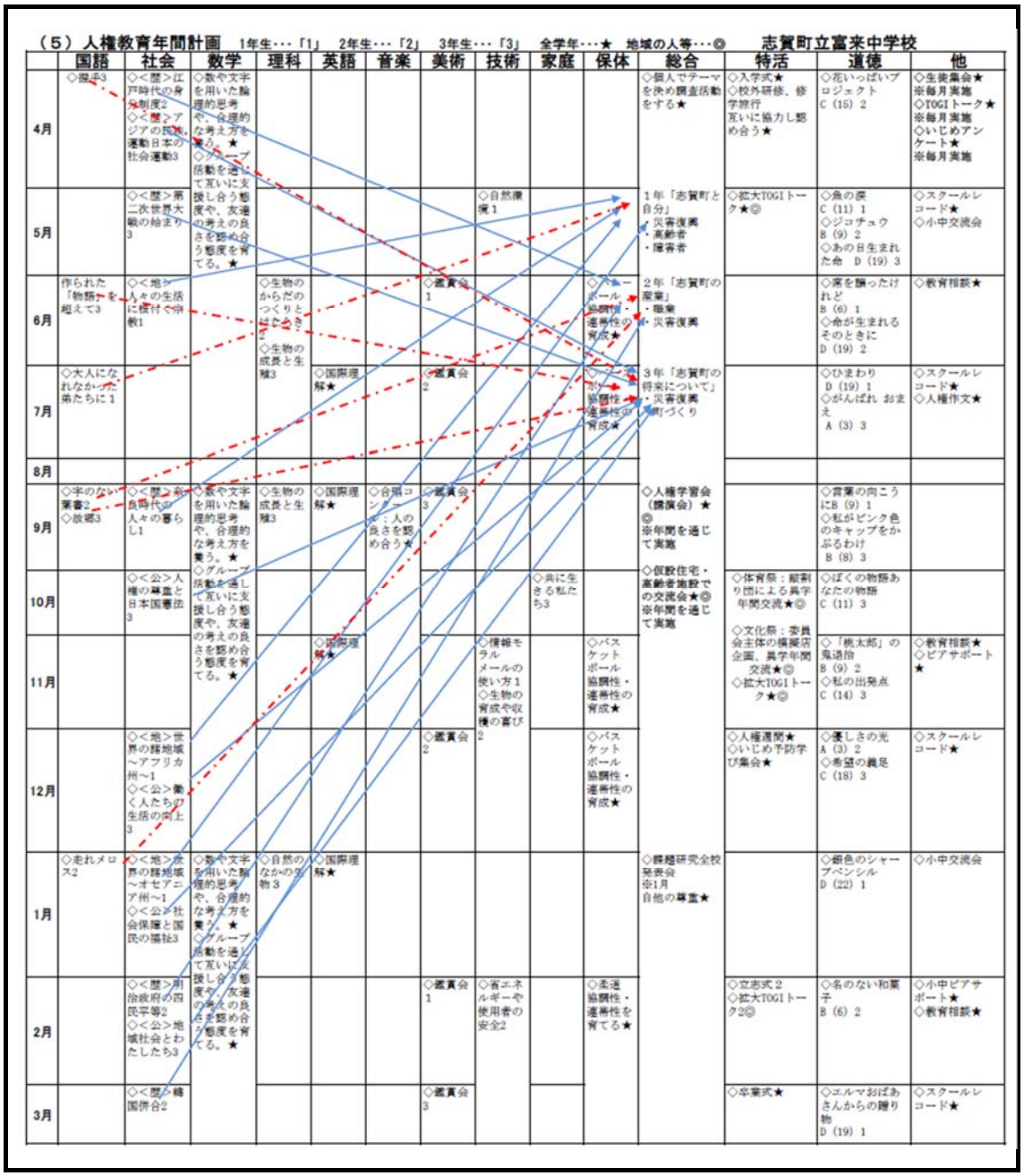
ウ 講師：危機管理教育研究所 国崎 信江氏

災害時の人権について、能登半島地震での事例をもとに学んだ。

③ 期間後の継続的取組

今年度の取組は、課題を修正し継続して実施していく。

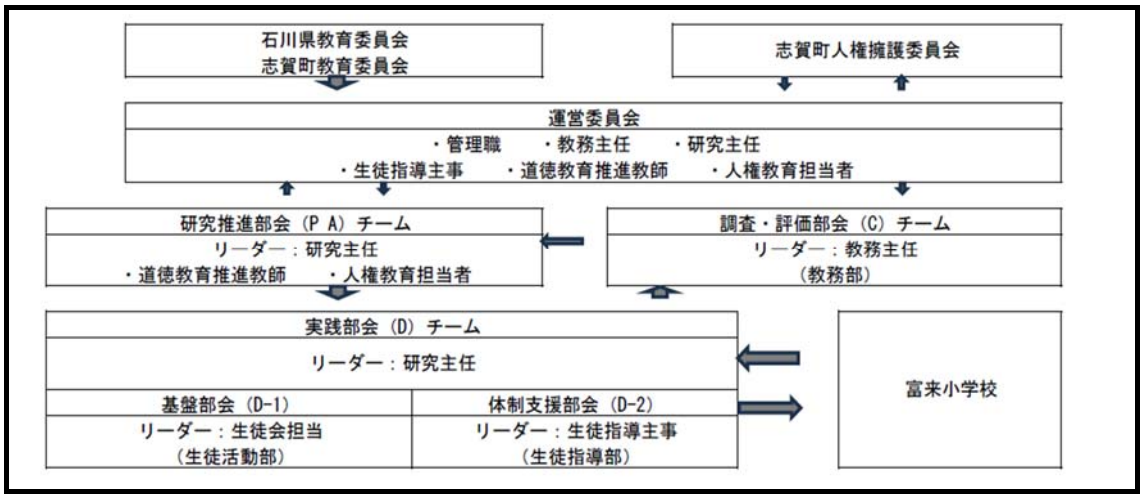
５．人権教育にかかる年間指導計画



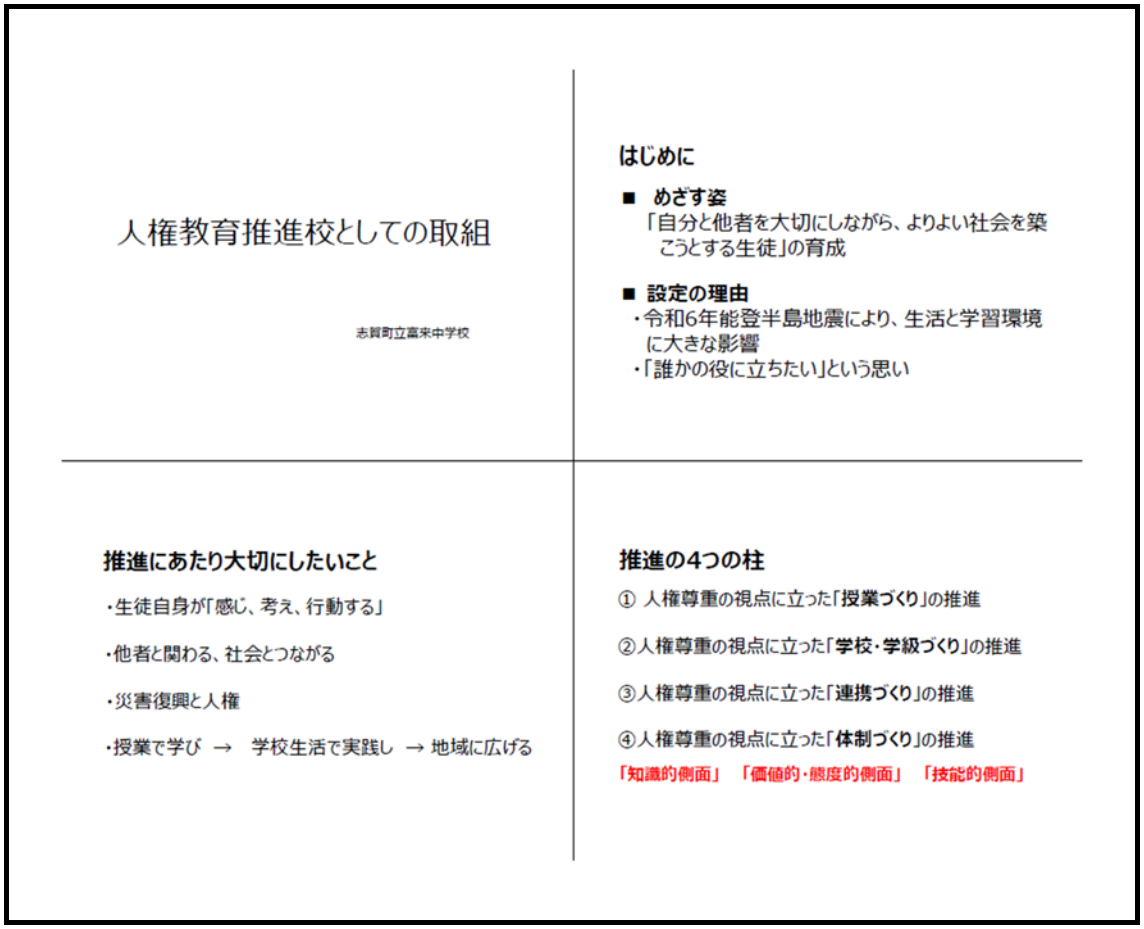
（５）人権教育年間計画　1年生…「1」　2年生…「2」　3年生…「3」　全学年…★　地域の人等…◎　志賀町立富来中学校

	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	技術	家庭	保体	総合	特活	道徳	他
4月	◇握手3	◇<歴>江戸時代の身分制度2 ◇<歴>アジアの民族運動日本の社会運動3	◇数や文字を用いた論理的思考や、合理的な考え方を養う。★ ◇グループ活動を通して互いに支援し合う態度や、友達の考えの良さを認め合う態度を育てる。★					◇自然環境1			◇個人でテーマを決め調査活動をする★	◇入学式★ ◇校外研修、修学旅行 互いに協力し認め合う★	◇花いっぱいプロジェクト C（15）2	◇生徒集会★ ※毎月実施 ◇TOGIトーク★ ※毎月実施 ◇いじめアンケート★ ※毎月実施
5月		◇<歴>第二次世界大戦の始まり3									1年「志賀町と自分」 ・災害復興 ・高齢者 ・障害者	◇拡大TOGIトーク★◎	◇魚の涙 C（11）1 ◇ジコチュウ B（9）2 ◇あの日生まれた命　D（19）3	◇スクールレコード★ ◇小中交流会
6月	作られた「物語」を超えて3	◇<地>人々の生活に根付く宗教1		◇生物のからだのつくりとはたらき2 ◇生物の成長と生殖3			◇選責会1			◇バスケットボール協調性・連帯性の育成★	2年「志賀町の産業」 ・職業 ・災害復興		◇家を飾ったけれど B（6）1 ◇命が生まれるそのときに D（19）2	◇教育相談★
7月	◇大人になれなかった弟たちに1				◇国際理解★		◇選責会2			◇バスケットボール協調性・連帯性の育成★	3年「志賀町の将来について」 ・災害復興 ・町づくり		◇ひまわり D（19）1 ◇がんばれ おまえ A（3）3	◇スクールレコード★ ◇人権作文★
8月														
9月	◇手のない革命2 ◇故郷3	◇<歴>江戸時代の人々の暮らし1	◇数や文字を用いた論理的思考や、合理的な考え方を養う。★ ◇グループ活動を通して互いに支援し合う態度や、友達の考えの良さを認め合う態度を育てる。★	◇生物の成長と生殖3	◇国際理解★	◇合唱コンクール：人の良さを認め合う★	◇選責会3				◇人権学習会（講演会）★◎ ※年間を通して実施 ◇仮設住宅・高齢者施設での交流会★◎ ※年間を通して実施	◇体育祭：綱引り団による異学年間交流★◎ ◇文化祭：委員会主体の模擬店企画、異学年間交流★◎ ◇拡大TOGIトーク★◎	◇言葉の向こうにB（9）1 ◇私がピンク色のキャップをかぶるわけ B（8）3	
10月		◇<公>人権の尊重と日本国憲法3							◇共に生きる私たち3				◇ぼくの物語あなたの物語 C（11）3	
11月					◇国際理解★			◇情報モラル メールの使い方1 ◇生物の育成や収穫の喜び2		◇バスケットボール協調性・連帯性の育成★			◇「桃太郎」の鬼退治 B（9）2 ◇私の出発点 C（14）3	◇教育相談★ ◇ピアサポート★
12月		◇<地>世界の諸地域～アフリカ州～1 ◇<公>働く人たちと生活の向上3					◇選責会2			◇バスケットボール協調性・連帯性の育成★		◇人権週間★ ◇いじめ予防学び集会★	◇優しさの光 A（3）2 ◇希望の義足 C（18）3	◇スクールレコード★
1月	◇走れメロス2	◇<地>世界の諸地域～オセアニア州～1 ◇<公>社会保障と国民の福祉3	◇数や文字を用いた論理的思考や、合理的な考え方を養う。★ ◇グループ活動を通して互いに支援し合う態度や、友達の考えの良さを認め合う態度を育てる。★	◇自然のなかの水物3	◇国際理解★						◇課題研究全校発表会 ※1月 自他の尊重★		◇銀色のシャープペンシル D（22）1	◇小中交流会
2月		◇<歴>明治政府の四民平等2 ◇<公>地域社会とわたしたち3					◇選責会1	◇省エネルギーや使用者の安全2		◇柔道協調性・連帯性を育てる★		◇立志式2 ◇拡大TOGIトーク2◎	◇名のない和菓子 B（6）2	◇小中ピアサポート★ ◇教育相談★
3月		◇<歴>韓国併合2					◇選責会3					◇卒業式★	◇エルマおばあさんからの贈り物 D（19）1	◇スクールレコード★

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）



７．関連資料



柱① 授業づくり（自他の価値の尊重）

自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育む授業づくり

授業づくり

学びを生徒に委ね、対話を大切にした学習者主体の授業（富来アカTIME・富来アカチャレンジ）

▶多様な考えを受け止め、問題解決を図る意欲や態度
▶自他の価値を尊重しようとする意欲や態度




授業づくり

生徒指導の4つの視点を生かした、安心して学び合える学習環境づくり

人権教育の視点で４つの視点を捉え直す。

４つの視点を踏まえた見取りとアシストを行う。
→ 自信をもって学習を進めることができる。
失敗や考えの違いが受容される。



▶自他の価値を尊重しようとする意欲や態度

授業づくり

生徒の心に「主体性の火」を灯す工夫

①定期的な学習オリエンテーションによる教師と生徒との合意形成
②全生徒の心に火を灯すことを目指した生徒会との連携
（生徒の言葉で学びを語る場の設定）




柱② 学校・学級づくり（人間関係・実践力）

互いのよさを認め合える人間関係づくりと、生徒主体の活動による安全・安心な風土の醸成

学校・学級づくり

短時間グループアプローチ「TOGIトーク」

決められたテーマに沿ってグループで話し合う。
自他を大切にする「かかわりの力」を育てるとともに、人間関係の土台を整える。

▶ 適切な自己表現と傾聴
▶ 互いに認め合い、温かい人間関係をつくろうとする意欲や態度



学校・学級づくり

生徒による「生徒心得」の見直し

課題発見 ➡ 学活・全校学活 ↑↓ 検討委員会 ➡ 提案 ➡ 試行 ➡ 決定

▶ 身近な課題を自ら解決する意欲や態度




学校・学級づくり

「人権の森」コーナー

人権学習会でのふり返りの共有や、個別的な人権課題に関する情報発信をすることで、生徒の人権感覚を高めていく。

▶人権についての知的理解




学校・学級づくり

「人権の森」コーナー

▶人権についての知的理解

＜人権学習会　学びの足跡＞





＜教職員による情報発信　性的指向、性自認＞

柱③ 連携づくり（社会とつながり行動する力）

地域や異年齢集団、関係機関と連携し、課題に気づき、考え、行動する力の育成

連携づくり

異年齢間での絆づくり　小中交流会

児童生徒が企画運営するレクリエーション活動

▶ 互いに認め合い、温かい人間関係をつくろうとする意欲や態度





連携づくり

拡大TOGIトーク（対話の対象やテーマを広げる）

ＴＯＧＩトークで培った対話のスキルを用いて、地域の方や仮設住宅の方らと「災害復興と人権」の視点で関わる。

▶ 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度

▶ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性





連携づくり

拡大TOGIトーク（対話の対象やテーマを広げる）

ＴＯＧＩトークで培った対話のスキルを用いて、地域の方や仮設住宅の方らと「災害復興と人権」の視点で関わる。

▶ 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度

▶ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性







連携づくり

地域とつながる「災害復興と人権」

学校での学びや実践を地域で発揮する。

「地域を元気にするために、中学生の自分にできること」

仮設住宅・高齢者施設等での交流活動

→「自分の行動が誰かを支える」ことを体感





連携づくり

地域とつながる「災害復興と人権」

学校での学びや実践を地域で発揮する。

「地域を元気にするために、中学生の自分にできること」

仮設住宅・高齢者施設等での交流活動

→「自分の行動が誰かを支える」ことを体感

→ 相手の多様な思いや立場に気づく

→ 地域の一員としての自覚、地域とのつながりの醸成

▶ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

▶ 互いに認め合い、温かい人間関係をつくろうとする意欲や態度

連携づくり

人権学習会の実施（関係機関との連携）

個別的な人権課題を「自分ごと」として受けとめる機会を設定する。

▶ 人権に関する知的理解

▶ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

▶ 多様な視点から物事を見ようとする意欲や態度

・ いじめ（羽咋警察署）　・ 拉致問題（人権擁護委員）

・ 情報モラル（NTTドコモ）　・ 被災地支援と人権（自衛隊）

・ 災害と人権（危機管理教育研究所）　・子どもの人権（人権教育講話）

・ 性的指向、性自認（NPO法人グッド・エイジング・エールズ）

・ アイヌの人々（北海道立北方民族博物館・オンライン）

柱④人権尊重の視点に立った「体制づくり」の推進

組織的・継続的に推進する体制を整える。

① 人権教育担当を中心とした推進体制の整備

② 人権教育に関する校内研修の実施

③ 既存の教育活動を人権教育の視点で価値付け、整理分類

④ アンケート「THE　SCHOOL　RECORD」（年４回）を活用した評価と指導改善

→ 生徒や教職員の意識・行動の変容を定期的に検証

１人ひとりの回答に着目した見取りと、支援

今後に向けて

■成果

自己有用感と、社会と関わろうとする意欲の高まり

■課題

自己肯定感と他者理解

生徒の自覚化（対話と実践、経験の意味づけ）